

## 様式第 1 号

## 会 議 録

会議の名称		平成 30 年度第 3 回つくば市未来構想等審議会		
開催日時		平成 30 年 12 月 6 日 開会 14 : 00 閉会 16 : 20		
開催場所		つくば市役所 5 階庁議室		
事務局 (担当課)		政策イノベーション部企画経営課		
出席者	委員	塩田尚、永田恭介、吉富耕治、桜井姚、小玉喜三郎、宇津野茂樹、山海嘉之、大澤義明、生田目美紀、大島慎子、森博徳、中井聖、中嶋信美、北本政行、永井悦子、中嶋修、西美佳、林亮、山口圭一、横田直巳、飯野哲雄、毛塚幹人、門脇厚司 計 23 名		
	その他			
	事務局	神部政策イノベーション部長、片野次長、企画経営課員 8 名		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2 名
非公開の場合はその理由				
会議次第	【第 3 回つくば市未来構想等審議会】			
	1	開会		
	2	報告		
	(1)	第 2 回審議会の開催報告		
(2)	市民ワークショップの開催状況			
3	議事			
(1)	人口の動向分析・将来推計の実施状況について			
(2)	市民、中・高・大学生意識調査の実施状況について			
(3)	未来像策定のプロセスとプレゼンテーション実施について			
(4)	つくば市が目指す都市・まちの姿について《意見交換》			
(5)	関係人口に関する調査の実施について			
4	閉会			

## 審議内容

## 1 開式

片野次長：只今より第 3 回つくば市未来構想等審議会を開会いたします。本日は、23 名の委員の方に御参加いただいております。はじめに、市長の五十嵐より御挨拶申し上げます。

五十嵐市長：みなさまこんにちは。本日はお忙しいところ御参加いただきまし

てありがとうございます。審議会では皆様の御意見は全て読ませていただいております。本当に活発な御意見を出していただいているで大変ありがたく思っています。これまでの2回は基礎調査という位置づけでしたが、今回から未来像の策定に向けたより踏み込んだ議論をしていただくことになるかと思っています。やはりこれだけつくばのキーパーソンが揃っている会ですので、この機会をいただきまして、近況の報告、つくば市が今どんなことに取り組んでいるかということ、貴重な機会ですので共有させていただくことがいいかと思いましたので、少しお時間をいただいて最近の市政の取り組みについてお話をさせていただきます。

まずつくば駅周辺の中心市街地の問題があります。これも喫緊の話題で、クレオ再生がその中の一つとして様々な検討をしました。今日御参加いただいている委員の方にも大変御共感をいただきまして、お力をいただいたにも関わらず私の力不足で、議会の皆様から「重要性は理解するが、判断するには時間が足りない」ということで、結果としてクレオ運営に関与することについては断念をいたしました。本当に御尽力いただいた皆様には大変申し訳なく思っています。ただ、クレオだけが中心市街地の問題ではありませんので前を向き、今中心市街地まちづくりビジョンを実現するための戦略づくりを早急に進めているところです。今回検討する過程でワークショップやシンポジウム、アンケートといったようなものを様々な形で行って、御意見を伺ってきましたので、中心市街地に今何が不足しているのか、公共機能としてはどういうものが必要なのか、あるいは今ある公共施設でどのようなものがいかせるのかといったようなことも含め、検討しています。それからやはりつくば駅に近接する街区については住宅の制限を行っていくことや、そういったことを総合的に進めていき、つくば市の玄関口にふさわしいまちづくりを強い意志を持って進めていきたいと思っておりますので、これは引き続き御指導いただければと思います。

今回中心市街地の議論の中でも、もっと周辺市街地をというお声もたくさんありましたが、今回の中心市街地の議論というのも本来的にはこの周辺市街地とどうつなげていくかということを中心軸に考えていましたので、そのあたりも実際はかなり取り組みを進めているところです。現在8市街地で勉強会を開催しています。新しく周辺市街地振興室という部署を作り、そこで勉強会を開催し、地域の皆様に集まっていただいて、自分達の地域をどうしたら盛り上げていけるのかといった様なアイデアを出し、この地域はどういう未来像を描きたいのか、それぞれの地域で何が課題でどういう方向に向いていきたいのかということのを地域の皆さん御自身に議論をしていただいています。行政が「あなたたちの地域はこれをやればいい」とか「こうしていれ

ばいいんだ」とかそんなことを言う時代では全くありません。何よりもその地域に住んで、その地域のことを思っただけの皆さんが自分達で議論をしていく、その議論の進行役、ファシリテーションを行政が務めていって、そして地域で出たアイデアを形にするために必要な予算について工面していくとか、実現のためにサポートをしていくとか、そういう形での関わりを進めているところです。人口減少が周辺市街地で進んでしまっていますが、こういったものをきっかけに再転換させるような動きを作っていきたいと思っています。

それから今、新聞報道でもつくば市は待機児童が県内で一番多い、保育所に入れない子どもの数が一番多いと報道されていますが、これも県内で圧倒的に人口が増えている自治体として宿命かと思っています。どれだけ増やしてもそれを上回る人口増、そして子どもの数が増えている、これは大変喜ばしいことではありますが、一方で待機児童をそのままにしておいていいとも決して思っておりません。来年度は市立保育園2ヶ所、小規模保育事業所1ヶ所を新たに開園しますが、質も重要であると思っています。質の高い保育・幼児教育を計画的かつ確実に提供するために今保育士の現場の先生等も含め議論をして、「つくば保育の質ガイドライン」という、つくばの保育の質はこういうものだということを示すものを年度内に策定する予定で進めています。量と質を両方確保するのは非常に難しい課題ではありますが、それでもやはりつくばの子育ての環境をきちんと整えていくためには、これは必要なものであろうと思いますので、今議論をして作っているところです。

それからスタートアップの推進です。指針として、つくば市スタートアップ戦略を策定し、今月の20日につくば国際会議場で開催する市主催のイベント、「つくばスタートアップデイ」で公表します。また、つくば市産業振興センターを現在リニューアル中でして、来年の9月にはオープン予定です。ここで多くの起業家たちが集っていくような場所を作っていければと思いますし、つくばスタートアップの当日には、キーノートとして筑波大学の落合陽様にもお話をさせていただきたいと思っています。

それから先月は海外に行っている期間が長くありましたので、ちゃんと仕事をしてきたということも含めて少し御報告をしたいと思っています。まずはオランダに行きました。ここでイエナプラン教育という、今日本でも急速に注目をされ始めている教育の現場について見てきました。このイエナプラン教育では、いくつか特徴があり、例えば子供達が自分達で時間割を毎週月曜に一週間やることを決めていくとか、一クラス30人くらいの中に3学年、例えば5歳、6歳、7歳の子どもたちが一緒になっていて、5歳の子が分からないことがあれば6歳の子とか7歳の子に聞いてお互い教え合うような環

境ができていました。そもそも例えば子どもが海岸から石ころを拾ってくる  
と、そこから授業を始めて、これはどこからきたのだろうか、この素材は何  
だろうか、とそういう問いを皆で出し合って、問いから始めていって学びを進  
めてく、決してレクチャー形式の一斉授業のようなものは一切行わないで、  
インストラクションを与えるときも数人の子供達に対して与えて、そして子  
供達がクラスの中で別々のことをやりながら自分達で学びを進めていると  
いう、非常に注目に値する環境を見てきました。日本でも文部科学省があり  
ます。オランダにもその様な文科省が指定するカリキュラムがあるのです  
が、一体どうやってこのカリキュラムをこの学校で実現しているのか聞いて  
みたら、先生をグループリーダーとイエナプランでは呼んでいます、全て  
のカリキュラムを頭の中に入れておいて、子供達が石ころに関心を持った  
ら、この関心のこの子のパターンだったらカリキュラムのこの部分に該当す  
るなど考えるそうです。そうやって気づいたら1年間のうちで子どもは意識  
せずとも文科省が定めたカリキュラムを学び終えているというようなこと  
で、先生に要求される力も非常に求められるわけですが、そんな教育を見て  
きました。現在つくば市で総合教育会議というところで教育大綱という方針  
を教育委員の皆様と議論をしているところです。今後の大綱づくりの議論に  
いかしていきたいと思っています。

その後フランスのボルドーに行きました。つくば市ではワイン特区を昨年  
取得しまして、小規模なワイナリーの建設が可能となりました。これからワ  
インのまちづくりを進めていくわけですが、それは全国どこでもやっている  
といえやっているわけです。筑波大学とボルドー大学が協定を結んでいる  
関係もありまして、現地で非常に筑波大学の先生方にお世話になりまして、  
国立の研究機関やボルドー大学のワイン関係の研究者たちと様々な協議を  
行いました。ボルドーでは全世界のワイン産業づくりの後押しをしていると  
いうことです。つくばの気候というのは一見ワインづくり・ぶどうづくりに  
あまり向かないような、夏はできるだけ乾燥してほしいとか、夏の夜は気温  
が下がってほしいというのがワインの理想なので逆をいっているわけですが、  
それでも世界中でいろんな事例があるから大丈夫だと。来年以降、選り  
抜かれた研究者チームが1回つくばに来てくれて、一週間程土壌分析、気候  
分析、どういう品種が合うかといったアドバイスをいただけることになりま  
した。

また、フランスのグルノーブルではハイレベルフォーラムというものをや  
っております、世界中のエコシステム、研究学園都市やそれに起因するス  
タートアップ企業のグループが世界中から集まってきていまして、ここにお  
いてもつくばの様々な事例を紹介し、世界の取り組みを学んできました。

その後はモロッコに全アフリカ首長村長会議というものに、やはりSDGsの文脈で招待されて日本の首長として初めて唯一行ってきました。ここにおいてもつくば市のSDGsをどういう風に実践しているかという取り組み、そしてそれをどうテクノロジーにつなげているかという取り組みについて紹介し、非常に多くの関心をいただきました。それと同時に、現地で肌で感じたのは、アフリカは国家の規制がそれほど厳しくないのも、スタートアップ企業はどんどんまちを実験場にして新製品を開発して、それがサービスのインフラになっているような印象を受けました。日本の場合は規制にがんじがらめで何かひとつやるのにも大変なのですが、こんなことをしていたらどんどん日本は世界からおいていかれるなという危機感を非常に強めました。アフリカの首長たちとの意見交換、あるいは国連の高官なども来ていましたが、このままではやはりいけないなということも感じているところです。

そういった持ち帰りが様々ありましたが、世界のつくばという中で当然つくばのプレゼンスを高めるための発信を各地でしていきたいと思ひますし、文字通り世界のつくばになるためにいろんな知見を持ち帰って市政にいかすということで、決して物見遊山の海外訪問ではなく、常に成果ベースでこれからも海外に行く際はいろんなアプローチをしていきたいと思ひております。

そういった全ての軸となるのが、SDGsなわけですが、皆様の机の上にSDGsのバッジをお配りさせていただきました。つくば市で独自に作った、これはなかなか入手困難なのですが、自分達で意志を持って作りましたので、ぜひ何かの際に付けてみてください。私もこのバッジはいつも付けているのですが、17のゴールを達成するためにはやはり17番目に書いてあるパートナーシップが重要ですので、ここにいらっしゃるつくばを代表する皆様に日頃からSDGsをテーマとして持っていただくとありがたいと思ひております。各国行って改めてSDGsというのは世界の共通言語だなど。誰もがSDGsの話をして、そこから話題に入れば必ず議論が色々膨らんでいくという印象を受けましたので、日本の自治体で初めてつくば市は持続可能都市ヴィジョンというものを掲げましたが、そういったものを実践そして実現していくためにはここにいらっしゃる皆様にお力をいただいでいく必要がありますので、ぜひよろしくお願ひします。大変長くなりましたが、今日もぜひ活発な議論をしていただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

片野次長：ありがとうございました。なお、五十嵐市長におきましては、他の公務と重なっておりますので、ここで退席させていただきます。それでは早速議題に入りたいと思いますが、ここからはつくば市未来構想等審議会条例に基づき、大澤会長に議長をお願いいたします。大澤会長よろしく申し上げます。

会長：みなさま改めましてこんにちは。今回は3回目の開催になります。先ほど市長の御挨拶もありましたが、これまでは基礎的な広い話に入りました。3回目に入りましたので、少し踏み込んだ内容、データが出てきます。まだ3回目ですので俯瞰的な議論も大切ですが、多少収束させるということも意識しながら御意見をいただければと思います。それともう一つ市長の御挨拶にもありましたが、つくば市の宿命というのはつくば市だけがよくなればよいというわけではなく、日本を引っ張っていくということのも大事だと思っています。今日具体的なデータが出てきますが、どうしても小さい議論になりがちですので、そこだけは御留意いただきながら御意見をいただければと思います。日本を牽引している自治体ということ誇りに思っこの会を進めていきたいと思っていますのでどうぞよろしく申し上げます。それでは議題に入ります。報告事項が二つあります。一括で事務局から御説明申し上げます。

## 2 報告

### (1) 第2回審議会の開催報告

事務局：【報告(1)】(報告1、を用いて報告事項の概要を説明。)

### (2) 市民ワークショップの開催状況

事務局：【報告(2)】(報告2、資料6、を用いて報告事項の概要を説明。)

会長：多少補足させていただきますと、9ページの委員の御発言で、32番の所です。未来像についてはワーキングでたたき台を作るというのが当初のストーリーでしたが、そうすると間口が狭くなってしまふ。やはりこの委員が集まっている中で未来像も議論したいと。要するにもう少し広げた議論をしたいということで、確かに筋が通った話ですので、この議論を受けて先ほど事務局からあったように、4番として「つくば市が目指す都市・まちの姿について」議論を展開したいと思っています。この部分に関してはこのメンバーで収束させるのは30分では難しいので、この部分は発散させながらまず意見を聴取しながら少しずつ収束させるというプロセスを踏みたいと思っていますのでよろしく申し上げます。1番2番について何か御質問がありまし

たらお受けしたいと思います。よろしいでしょうか。できれば後ろの議論に時間をかけたいと思っていますので、進めさせていただければと思います。それでは報告事項の2つは確認させていただいたということにします。それでは議事に移ります。

### 3 議事

#### 【議事（1）人口の動向分析・将来推計の実施状況について】

会長：議事は5つありますが、最初の1点「人口のフレーム・予測等について」事務局から御説明をお願いします。

事務局：（資料1-1、1-2を用いて人口動向分析と将来推計について説明。）

会長：いくつかコメントをしますと、3つあって1つは人口推計の精度なのですが、かなり高くなってきております。コーホート分析を使っていますのでそここのところは問題ないかと思えます。2つ目なのですが、私自身、他の自治体の仕事もしているのですが、人口が増えている自治体というのは本当に少ないですね。その中でいいますと、つくば市はまだ世界で戦える数少ない自治体だと思っています。そういうことも御理解いただければと思います。3つ目は人口が増えているということですが、自然増ではなく社会増だということです。どう解釈するかというのは大事な意見かと思えます。それでは御質問御意見等がございましたらいただければと思います。いかがでしょうか。

場合によっては議論を進めてここに立ち返るということで。それでは議事を進めさせて頂ければと思いますが、よろしいですか。では、「（2）市民、中・高・大学生意識調査の実施状況について」について事務局から御説明をお願いします。

#### 【議事（2）市民、中・高・大学生意識調査の実施状況について】

事務局：（資料2-1～2-4を用いて（2）市民、中・高・大学生意識調査の実施状況と分析速報を説明。）

会長：今回の速報版ですが、104ページに書いてあります。市民の回収数は300、中学生は50、高校生276、大学生が268ということで、ある程度のサンプル数が集まっています。ランダムサンプルであればほぼ全体をカバーできるある程度精度を持っていて、速報版とはいえ、そういう内容と理解できるかと

思います。この設計に関しては前回かなり議論しました。それを受けてのアンケート調査になっております。質問等御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

委員：アンケートの報告は出してもらったものを見れば分かるのですが、アンケートの中身について何をどういう風に出すか、という所の検討をしたいのです。

会長：アンケートをどのように活用していくかということですね。

委員：要は何を作っていくかというところです。

会長：わかりました。まず主旨としては今回アンケートを受けて全体の市民の考えを理解するという事だと思います。委員がおっしゃるように、これをどうつなげていくかというのは当然一番のポイントだと理解していますので、まずはここで1回情報共有させていただいて、それから今後の展開に持っていければと思いますがよろしいでしょうか。なかなか難しいと思うので一步一步ステップアップ、今のようなスキーム、やり方についての御意見もいただければと思います。委員さんお願いします。

委員：高校生と大学生の回答の中でつくば市に住んでいない人がかなりいるのですが、つくば市に住みたいといっている人が市外の人なのかつくば市に住んでいる人なのか検討していただけるとありがたいです。

事務局：今回は単純集計という形で、住んでいる方も住んでいない方も合わせているのですが、お住まいも設問で聞いているので、今後、クロス分析という形で、住んでいる方が住みたいか、住んでいない方がどう思うかと分けて分析をしたいと思っています。

会長：ありがとうございます。今後クロス分析をしながらと思っていますが、クロス分析というのはN個あればNの二乗になるのでそのところを今の御意見のようにこういうクロスが必要だと御意見いただければと思っています。

他いかがでしょうか。前回まではかなり活発だったと思うのですが、今日は気候が寒いせいか意見があまり出ていません。では進めさせていただきます。またこのアンケートに戻るということも含めて、議事を進めさせていただければと思います。3番「(3) 未来像策定のプロセスとプレゼンテーション実施について」事務局からお願いします。



### 【議事（3）未来像策定のプロセスとプレゼンテーション実施について】

事務局：（資料3-1～3-4を用いて（3）未来像策定のプロセスとプレゼンテーション実施について説明。）

会長：はい、ありがとうございます。大事なところをいくつか、まず85ページですが。本日の会議でワーキングとは別に皆さんの知見をいただき、それを受けて合算させて最後の4回目で審議会においてプレゼンをするという内容だと思います。次の86ページ、第1回目の会議で出てきた資料です。多くの総合計画はどちらかというとフォアキャスト、現状から未来を計画していくというものです。今回はそれではなくてバックキャスト、つくば市の未来を想定してどうつくば市にパスを作っていくかという意味でのバックキャストです。当然フォアキャストですとなかなかイノベーションというのは起こりにくいのですが、バックキャストによってまちづくりに関してもイノベーションを起こすという意図が感じられます。そういう観点から今回4番目、この後の議題になりますが、意見交換しながらこのつくば市の未来のところに④で御意見を賜りたいと思っています。こういう進め方だと思いますが、質問等ありましたらお受けしたいと思っています。いかがでしょうか。

委員：確認でございますが、63ページ、個別施策評価調書に基づき個別施策を抽出されたと思うのですが、抽出もワーキングチームで独自に選んで、個別施策以外のものはテーブルから外したということによろしいでしょうか。個別施策が全部かどうか、確認です。

事務局：現在の個別施策は30ありまして、未来構想と戦略プランに載っていますが、30全てについて意見交換を行っております。ただ、おっしゃるようにそれが全てかということ、例えば今の未来構想には周辺市街地の考え方等が載っていないというのもあり、そういったものについては補足のような形で情報提供等を行っております。基本的には市政に関連する全ての個別施策について意見交換を行ったという形になります。

会長：他いかがでしょうか。

委員：前に戻ってしまって申し訳ないのですが、つくば市の財政予測がないとどういう未来を描くかというのはわからないので、人口統計があるので財政も出していただきたいです。要するにお金がいくらでもあるならいくらでもバラ色の未来が描けますが、高齢者が増えるわけなのでお金がないのだったらできないことはできないので、確認をお願いします。

会長：事務局お願いします。

事務局：86 ページを御覧いただきたいと思います。今回、本来であればおっしゃるような人口推計と財政推計を全て出揃えて御報告をしたかったところなのですが、左上の市の規模・体力というところで将来人口と財政推計について作業中で、人口と財政推計が連動しているものでどうしても作業が後ろの方になってきております。これについてでき次第、改めて御報告させていただきたいと思います。

会長：はい、ありがとうございます。御指摘通り、財政については強い条件になると思います。準備が遅れているということもあり、今日の議論ではその辺も加味しながらも少し大きく展開したいと思っています。あまりお金のことを入れすぎちゃうとどうしても小さくなってしまいますので、最終的にそうなるかと思うのですが、まずは大きく議論を展開したいと思います。いかがでしょうか。

委員：小さくする必要はないと思います。もしお金が足りないのならお金を取る方法を導入すればいいわけですから。例えば特別に何か税金をかけるとかそういうことも前提として入れていいかということですね。

事務局：最終的にはどういった手段で描いた未来像を実現していくのかというところは、具体的な施策のところ落ちてきて、そういうところでは必要に応じてそういう施策も入ってくる可能性もあると考えております。会長もおっしゃったように、まずここでは現実的なファクトを踏まえながら皆さんどういった未来を目指していくべきかといったことを、かなり俯瞰的・長期的に描いていただいて、その中で実際にどこまでできるのかといったところはまた次の段階で具体的な施策も含め考えていければいいかと思っております。

会長：よろしいですか。はい、お願いします。

委員：1点質問と1点確認させてください。76 ページなのですが、キーワードについて、結構バラバラな印象を受けるのですが、これはバラバラでもいいものなのか、それともこれからもう少しブラッシュアップするのでしょうか。例えば、産業振興という意味でいうとスタートアップのことしか書かれていなかったり、対象となる人をもれなく救うという抽象度が高いキーワードが散発的に出ているのは、どう理解し、考えていけばいいのか教えてください。あと1点は86 ページなのですが、この審議会の最初の時にバックキャストアプローチでいくという話があったと思うのですが、この図をフラットに見るとフォアキャストのように見えるのですが、最初につくば市の未来がありそこから3つのベクトルに紐づけていくという話だと理解できるのですが、

それでよろしいですかという確認です。

会長：お願いします。

事務局：1つ目の76ページにつきましては、それぞれ出てきた課題からキーワードを抽出した形になりますので、これはおっしゃるように多少バラツキがございます。ただ、今後未来像を抽出・策定していく上で、念頭に置いておく共通するキーワードという形で出しておりますので、これにつきましてはこうした共通する考え方、横串となる候補があるという形で捉えていただければと思います。特に全部網羅する形で作り直すとか、整えるという作業は今後行わないと考えています。また、86ページにつきましては、御指摘いただいたような形でよろしいかと考えており、ただ行政がバックキャストをやる以上、やはり理由が説明できないといけないということがあり、これまでもフォアキャストとバックキャストの良いところ取りという御説明をしておりましたが、バックキャストが基本であり、フォアキャストの良いところも取り入れつつ、根拠が説明できるようなバックキャストにしたいと考えておりますのでこのような表現となっております。

会長：私が理解しているのは、バックキャストがメインで、多少フォアキャストを考慮しなければいけません。軸足のかけ方はつくば市だからこそできると思うのですが、やはりバックキャストをメインに持っていくと理解しています。他いかがでしょうか。

委員：事前にもらった資料の25ページですが、2つ目の丸に「年少人口は2020（平成32）年以降は緩やかに減少していく。」と書いてありますが、この人口問題研究所が推計したのはいつの時点かわかりますか。何年の時点でこのような推計をしたのか。

事務局：こちらの2015年国勢調査を元に2017年に行ったものです。

委員：今教育局では専門会社に2040年までに年少人口ですから小学生・中学生が当然含まれていますが、小学校・中学校の数がどのくらいまで増えるのか推計を出してもらっていますが、すでに2年後には教室が足りなくなるという事態が予想されています。2040年までには、相当な伸びが予想されて、ある学校では3,000人を越えるとか、4,000人を越えるとかいうような推計が出ているわけです。周辺地区の人口が減っている、児童・生徒の数が減っているということは予想されるにしても、合わせて7,000人を越えるほど児童・生徒が増えるということは、つくば市全体では明らかに増加するの考えるのが自然でしょう。とすれば、0歳から14歳の年少人口が2002年から緩やかに減少していくという記述はミスではないかなと思います。財政につい

でもデータを出してくださいと委員からの発言がありましたが、年少人口の増加は、校舎の建設量を考えると相当に大きな問題として考えないといけな  
いと思い、「減少する」という記述の確認をさせていただきました。

会長：事務局いかがでしょうか。

事務局：25 ページにあるのは国立社会保障人口問題研究所、通称社人研という  
国の関係機関の方で推計しているのを今回用いております。そちらではつく  
ば市全体という形で合算して推計を行っておりますので、このような推計と  
なっております。現在地区ごとに細かく推計を行うという形で、つくば市独  
自の人口推計を行っておりますので、それによって増える地区がある一方、  
減る地区がありますので、その結果全体としてどうなるかということにつ  
いては次回の会議において改めてお示ししたいと考えています。こちらは国の  
関係機関が行ったもので、つくば市全体を足した状態となっておりますの  
で、次回につくば市独自の条件等を加味したつくば市の人口推計において地  
区ごとでどのような結果が出るかというのも含めて改めてお示ししたいと  
思います。

委員：さっきも言いましたが、1校で3,000人も4,000人も超すという統計が  
出ているわけで、これは中心部の学校ですが、周辺部は確かに少なくなるこ  
とは想定しています。その差を考えたとしてもつくば市全体としては減少す  
ることはないだろうと思っていますので念を押しておきたいと思います。

会長：はい、ありがとうございます。社人研の推計をしているのはうちの卒業  
生が何人か入って入って、よく「当たらない」と電話がかかってくるとい  
います。やはりこれはピタリとで当てるのはなかなか難しいと思います。か  
つ、これは全国共通の方法でやっていますので、御指摘通り詳細を分析すれ  
ば当然精度は上がってくると思いますが、最初のデータとしてはこれでまず  
とりかかりとして始めて、あとは財政のところ、学校というのは財政にかな  
り影響を与えますから、そういうところに関しては重点的にデータを掘り下  
げる方法を取りたいと思っています。

委員：よろしいでしょうか。私は委員の意見に実は賛成です。つくば市全体で  
は確かにある時点から緩やかに減少するかも知れません。しかし沿線開発の  
地域においては恐らくそう簡単にいかないと思います。つくば市の中でも人  
口が減少する地域と、まだまだ30年以降も伸び続ける地域があり、かとい  
って、現実にあっちの学校が人数減ったからあっちに行ってくれるかとい  
ってもそれは不可能です。もちろん日本国憲法では義務教育は義務づけられて  
おりますし、何が何でも行政は手当てしなくてははいけません。例えば中心部  
の開発で我々議会に最大の責任があるのですが、市の関与を諦めて民間主導

型でいくとなると、恐らく可能性としてはタワーマンションが一番大きな可能性があります。マンションは怖いですよ。一気にできます。それが一気に完売となると何百戸、あるいは千戸くらいの人口が一気に来ます。そうすると一気に小学生・中学生・幼稚園児・保育園児が増える。それを全部手当しないといけないのは私共つくば市ですよ。そういう直近の危機感も持っていたきたいと思って、多分委員は発言されたのでしょうか、わたしもそういう危機感を持っておりますので念のため御意見申し上げます。

会長：はい、ありがとうございます。その他どうでしょうか。

委員：今委員さんが言ったこと、皆それぞれ気持ちの中で仰っていると思うのですね。つくば市の中心といっているセンター地区、つくば市の顔って何かなど。私達がそう思っているのです。そこがマンション群で押さえられるというのは甚だ困りものです。もしそうであったら、センターとしてつくば市の顔として考えないといけない場所を移動することになります。筑波大学がアリーナを作ろうとおっしゃっているような、一本裏側のところにつくば市の本当の顔ですね、必要とするもの、こういうものを移動していく考えを大きくもたなくてはいけないと思っています。公務員宿舎を何の考えもなしに売りがぐっていく現象を私達は苦々しく見えています。でもつくば市はまだまだ確定しなくてもいいという余裕のある土地を持っていると考えられるので、移動することを検討した方が良く、国でコンパクトシティというのを打ち出していると思うのですが、こういう中で拡大したり拡張したり、あるいは新たな構想をつくば市にあったものを取り入れて都市づくりを本気になってしないといけないという場面が出てきたと思います。そうしたら筑波大が打ち出してくれたアリーナづくりや、エキスポセンターがあそこにあるような、あの近くにセンターを考えた方がいいかも知れないという風に、最初の開発から見ている我々からすると、マンション群で押さえられるというのは甚だ困りものと考えています。だから本物のつくば市の顔をこれから本気になって作っていくとしたら再度皆で知恵を出し合って、世界に誇れるような都市づくりをしていくということが理想かも知れない。委員、いいですよ。

委員：アンケートの内容に関する事以外の意見でもよろしいようなので、意見を申し上げます。今委員がおっしゃったことがものすごく重要な観点です。アンケートの回答で、直近では必要なものであることは明らかで、誰もが皆幸せになりたいと書いてあります。老後は収入が心配、健康が心配、だから何とかしよう、安全でいたい、子育てや環境を整えて出産もちゃんと面倒を見てもらっていい教育を受けたい、にぎわいがあるまちを作ってほしい、若者はやりたい仕事に就ける、住環境は自然環境が整っていて素晴らしい

い、教育は大変良い、若者も買い物が不便だと言っています。全部やるしかないです。これをいくらでやるかという問題も先ほど出てきましたが、お金がかかるでしょうけど、今委員が言われた観点に立たないと作れません。全部住んでいる方の幸せを達成するのは自治体の役目ですから、やらなくては いけませんし、これを実現するのにどういう形でやるか考えないと いけません。バックキャストとおっしゃっているので、相当未来、これからの未来からバックキャストするときが一番考えないと いけない。その際につくばが有利であることを申し上げたいです。

今現在のテクノロジーの進歩は知識集約型社会に変わろうとしています。今までは工場も何もかも集約してやるという社会が続いてきたのです。今はどこでも知恵が集まればそこが拠点になるというのがこれからの社会です。これをまず念頭におかないと いけません。そういう社会でつくばは拠点になりやすいわけです。次にテクノロジーが進むと一極集中が緩和されます。つまり地方分散型になります。アメリカでは進んでいて、アメリカの大手本社はほとんど東海岸、西海岸にはもう土地がないので、立地のよりよい、よりやりやすいところに移っています。日本は10年、15年遅れてまねしますから、きっとそういう風になります。今のテクノロジーが進んでいくと、どうしてもそういう風が変わっていきます。そうすると、東京から45分では地方には成り得ないけど、非常に個性のある地域として我々はここを考えないと いけません。このまち独特の顔を考えてから今やることを順番にやって いかないと いけません。

そうすると例えば委員から単語が出たので、コンパクトシティという構想をここに持ち込むとしたら、どういう形で持ち込むのか、持ち込まないのであれば分散型の村・町集約型のこのまちをこのままキープするのであれば一体どれだけお金がかかるのか考える必要があります。つまり例えば郵便局について考えると、コンパクトシティになれば郵便局は2～3個で済むかもしれません。東西南北にあればいいかもしれません。それは我々が選択するわけですから、皆で議論をして選択をしていくわけです。そうするとコンパクトシティをつくばの中にいくつ、例えば15から20の拠点を作ることがあれば、後はそこにうまく集約できる形を作っていきます。農業であっても、通勤型農業も当たり前ですし、農家の方が農地の現況、例えば今日の湿り気具合やカリウムの量は卓上で分かる時代なので、農業のやり方自体まるく変わるわけです。そう考えたときに大変有利な場所じゃないですか。つくばというまちじゃないとできないことがたくさんあるのだと思います。

その中でこのまちの未来をコンセンサスとして、先ほど人口が増えるか増

えないかといっていました。増やしていくのです。私はそういう前提で聞いています。減少を止めるというなら止めなきゃいけないのです。人口がある一定以下になるとまちは即座に滅びます。これはポピュレーションジェネティクスという有名な基本的な理論として、種の場合は800個体を切ると絶対に復元できないという、数学的にも事実としてありますが、まちなもそうなのです。ある人口の限界を超えると絶対に復活できません。そうだとすればこのまちな特性をいかしてこれから生きていくなら、ある一定数のある目的をもって、あるいはいろんな気持ちを持った人達がここに集まって生きていける社会を作らないといけません。それを自治体が一生懸命サポートして、さっき書いてあったように、老後も安心、いきいきしていける、仕事もある、安全で子育てもできる、教育も受けられる、そういうまちなにしないといけません。そうするために、どこかを必ず変えていかないとはいけません。

先ほど申し上げたように、これまでと違って知的集約型というのはいろんなところの知恵をリモートで集めて何かができる時代になっています。東京に頼らなくてもできる時代になっている、という強い認識を持つことでまちなをどう作るかの方向性が変わっていくと思います。私も教育や子育てができるいい環境のまちなでいてほしいと強く思いますが、全体像を考えたときにはそれは当然です。ある程度人口を保ちたいといっているなら当然そうしないといけません。そこで先ほど委員が言われたことは大変重要です。ただではできないので、僕らとしては未来像を考えるということは、これを実現させるために何をしたらいいかを今考えないといけないということです。要望は充分に出ていると思います。全てやらないといけない前提だと思います。それをやるためにどうしたら住民税だけではない税金をこのまちなに落とせるかだと思います。それを今考えないで何をしたいこれをしたいというのは無責任だと思います。僕らは住民税に頼りたくないで、できれば法人税等違う形をつくばに落とさせないと考えるので、その為にはどうしたらいいのか、しかも騒音が大きいのはいやだとかいろいろ考えることがあります。それを考えないで何をやりたいなんていうのはやはり贅沢だと思います。

財源のことを今話しても無理だと思います。だとするとまちづくりの中にどういう産業が、例えば農業振興と書いてありました。農業振興は比較的高い割合でがんばって考えてほしいというところに入っていました。残念ながら産業振興は非常に低いところになりましたが、そこをなしに先を考えるのはよくないです。つくば市の未来構想を考えるのであれば、住環境は当然皆でディスカッションをしてベストを求めるのですが、それを支えるために産業や、あるいは税金を何とかつくばにもう少し落とさせる、その構図を同時に考えないといけない。それをまちづくりの中で実装しないと、両立させ

ることはできないのではないかと思います。それも産業は何でもいいのです。このまちが IT 技術が盛んなまちで、関連企業の拠点がここにあるということを利用してならそれも考えます。徳島は電気代を安くしてそういう企業を誘致したわけです。そういう場合に全体で考えてこのまちの将来像としてやりたいことのために、しかしあまりコンセプトの違う企業は欲しくないという、そういう立場で全体を考えないといけないのかなと思っています。

最後にこれから皆様の頭の中で成功例が山のように残っているのは、ものづくり日本、立ち上がれ昭和日本の、それこそ東京オリンピックから高度成長を続けた時代だと思えますが、もう忘れないといけません。本当にどこかのある 3C（新三種の神器）をどんどん作るという時代ではないです。そういう時代に突入しているので、実はつくばというのはすごく有利なまちです。それを何とか前に押し出して、我々としては静かなものづくり、あるいは目に見えないものづくりというのもあると思えますが、ぜひとも皆で知恵を出し合って、来て欲しい産業を周りに持ってこないといけません。つくば市の歳出は 850 億円です。このお金でどんなことを話し合っても限界があるので、我々にとって都合のいい、我々にとって望むものも育てながらまちづくりをするというのがいいと思います。その時に顔が大切で、こういうまちですよ、こういうまちを目指していますよというまちの実態としての見え方が大切だと思います。入った途端に農村が広がっているのも一つのあり方です。つくばの駅を降りたら広々としたトウモロコシ畑があるという作り方だってできると思います。そういうのを皆さんと一緒に話し合えると良いなと思います。アンケートをさっきからずっと見て、キーワードに重みを付けて図表を作っていると、皆さんやはり幸せになりたい、安定した暮らしをしたいというのが見えてきます。本当に素晴らしいことでその通りだと思います。というわけで、初めての参加なので 3 回分まとめて意見を言わせていただいて、許していただければと思います。

委員：とてもよかったです。

委員：これからです。

会長：その他の方はいかがでしょうか。

委員：大変おもしろいお話で聞き入ってしまいました。私が考えるのは、人口推計が出ていますが、35 年を頂点に徐々に人口減少という動きがあります。つくばだってこれだけ人口が増えていますが、いつかは減少するわけで、それはもし出生率を 3.5 とかに増やしていけば可能かもしれませんが、そうでなければ会長がおっしゃったような社会増加として余所からこちらに移動



してきます。余所から奪ってくるという都市間競争ということになろうかと思ひます。私は人口増加を前提としたまちづくりがいいのかどうか、そのあたりも皆さんの意見をしっかり聞きたいというところがございます。つくば市はたくさんの公共施設を持っております。そのファシリティマネジメントもこれからありますが、今の公共施設を徹底して多機能化・複合化することを考えていただきたいと思ひます。何にでも活用できるように、新設の学校であってもそれが高齢者の施設になるということは当然だと思ひます。そういうこともしっかり考えてその上で、大きくならなくても質の高いまちづくりができるように考えていきたいと思ひています。

会長：今議題3なのでもう4に入ったような雰囲気ですが、まず3に関してよろしいでしょうか。その後4に移りたいと思ひます。時間がきびしいですが。皆さんに伺いたいと思ひています。進め方、プレゼンテーションについてはこれでよろしいですか。色々御意見あるかと思ひますが、それでは4番「つくば市が目指す都市・まちの姿について」の議題に入っていきたいと思ひます。

#### 【議事（4）つくば市が目指す都市・まちの姿について】

委員：先ほど委員の方から皮切りに、話が出てきました。実は私も参加しながら折にふれ、バックキャストの方式を使いながら何をやってくるかというところ、そこに到達するためのプロセスのシナリオをちゃんと作っていくことだと思ひます。つくばをどうしていくのかというのがかなり重要なことで、その為今回未来構想がかなり重要なことなので参加させていただいています。先ほどつくばの顔の話がありました。つくばはどのような市であるか、それを決めていくのは恐らく市としての重要な役割の一つだと思ひておりますが、残念なことにつくば市のコアな部分はマンションができる話があります。それに対して何とかできないかと御協力できるようにがんばりましたけれども、市の一つの方向性だと聞いた瞬間から少し力が抜けてくる位の気持ちで残念でしかたありません。そうはいっても、そうなったらそんなで、また別の可能性を追求や、色々な方法論を考えていけばいいと思ひます。

そうすると、先ほどつくば市はどのような姿の市になっていくのかというところで、バックキャストの話の方法論の話とどのような姿になっていくかというところで、アンケートをとるとというのは一つの方法論であります。参考としては重要であると、今回黙って聞かせていただいております。その時に、結局のところ描かれる像とそれをどう現在につなげていくかというその部分が、これから作られるという話で解釈してよいのでしょうか。かなり重要で、財源のところを税金でやっていくのは限界があるので、どういう風

に集めていくのかというところが重要になります。例えばアウトレット的なベンチャーの資金調達、そしてお金が入ってくる、そして人を雇用することができますし、また大学から出ていった人たちが東京に住んでいくという話が出ておりましたが、このつくば市でチャレンジをしてもらうことによってまた定着していき、そういう人数が多く増えなくても、潤う仕組みができるのではないかと思います。つくば市は特殊で、世界中を見てもこれだけ人が集まっているところはないのです。

先ほど委員が触れていましたが、工場を持ってくるような時代じゃなくなっているのです、そういう意味ではとてもやりやすい。変な話ですが、数学をやって統計をやっている人達の就職場所は、がんばって高校の先生になるというところだったものの、今では引く手数多です。業界では高値で募集されています。つまり、それくらい産業の構造が大きく変わろうとしている状況になっておりますので、そこをいかそうとするとそういう人達が集まっているんなチャレンジができる場を作り上げていくというのはつくば市として重要だと思っています。

一つはイノベーションというキーワードでそれは4-2の話だとすると、先ほど人の幸せがという話がありましたが、いろんなものが潤ってきた段階では下がっていくと思いますし、冒頭で市長が触れられたワインの話もありましたが、農業という観点から考えるとおもしろいと思います。事例だけ申し上げますと、サンフランシスコに行くにあちらでバルーンカテーテルというものを発明した85歳くらいの教授がいて、その教授が自分のワイナリーを持っていて年に何回かそこで人を集めて夕食会をしています。何かという札を渡されて、入札させるのです。何のオークションをさせるかというと、そこに来ている新しいチャレンジャーに対して、その夕食会で個人として寄付をして、そこでまた皆さん成功したらこういったことをやってくださいという一つの人を育てていくサイクルができています。その時に思ったことが、ワインってそんな力があるのだなと思い、何とかつくばにワイン作りたかったくらいです。どうしてカリフォルニアあたりはワインがしっかりしてくるかという、実はカリフォルニア大学を含め農業の分野の人達をどんどん採用して、改良を進めていった時期がありました。それでいい品種を作り出して優勝していくような、一つのことをきっかけにして、一つのおいしいワインが値段の高いワインに替わりました。そういうこともこの市だとできるので、ぜひ。先ほどのプロセスのところでは道筋のところはシナリオがきれいに分かるところ、そこが実はこの市をどう仕上げていくかということに全てつながる話だと思います。

バックキャストするとき重要なのが、遙か遠方の千年先の未来を描くと

いう話からバックキャストできないわけで、そうするとところどころ、ある程度目に見えるかたちの具体化された絵を描いていく必要があると思いました。今私が相談させていただくのは、この市そのものが世界に突出したような話です。新しい産業を生み出すコアをいつもそこで作り出して、人がそこにやってきてはまた次にチャレンジしていくような、そんな場に仕上げていけたらいいのではないかと思います。そうなることによって若い人もそこに生活する人も、またお年を召していく人達もいるので、そこを支えていく社会課題を解決する産業という話を軸にするのもいいなと思い、話を聞かせていただきました。

会長：ありがとうございます。いろんなキーワードが入りましたし、私自身も社会課題解決だけでなく、地域経済の両立が必要だと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。時間が厳しくなってきたので、ぜひ皆さんから一言いただきたいと思ひますので、発言していない委員さんはお願ひします。

委員：大変勉強させていただきました。私が印象に残ったのは大学生と高校生のアンケートで、自分達がこのまちを作っていくという意欲が全くみられないアンケート結果であることです。如何にも客観的なわけであって、当然教育の質が高いとか、それから一番ショックだったのは、質問で聞いているからしかたないのですが、科学技術で外国語の自動翻訳システムができる、それで楽になる、これを高校生と大学生がいつてはいけなないと思ひます。本来彼らは外国語を習得して自分がメディアになろうという気持ちがないといけません。ですから全体的に高校生やもっと小さい子でもいいのですが、ここは好きだ、ここで住んでみんなとやっていくぞという意欲を醸成するような教育をしていただきたいです。ものはいくらでもお金で作っていただきたいのですが、私はこのアンケート結果でがっかりしました。うちの学生も入っていますから。

会長：ありがとうございます。

委員：これまでの2回の審議会と意見交換会に参加させていただきましたが、どういふ都市にしたいかといふのは繰り返しになりますのでそちらの方を御参照いただきたいのですが、89 ページにある持続可能なまちといふことで、まちづくりの理念を見させていただき、この資料まで議論にいくべきではないかもしれないのでコメントだけです。持続可能なまちといひますと、言葉面からみて現状維持していけば良いのだととらわれがちですが、もちろんそうではなくて現状維持していこうと目指したのでは恐らく落ちていき、ポジションがだんだん下がっていく。逆にどんどん攻めていつてようやく現

在のポジションが維持できるという世の中に今なっていると考えています。先ほどから言われているようにいろんな分野、子育て・教育・産業・インフラ・高齢者の働く場所など、それぞれのところで世の中の的には進化していると思っていますので、そういったものをつくばとして先取りしていったりよく持続可能なまちになると考えていくべきではないかと思います。

そういう意味ではいろんなところで市民を含めたいろんな方がチャレンジしていくという気持ちを持ってよく持続可能なまちになると考えています。それから話が戻って大変恐縮なのですが、86～87 ページに一つずつだけコメントさせていただきますと、86 ページで言えばこの3つの軸がありますが、ここは非常に重要で、これから都市が選ばれる時代だと思っていますので、今どう行った都市が求められているのか、あるいは魅力として受け止められるかということは非常に重要だろうと思っています。それから 87 ページに関してコメントしますと、戦略と主要な課題のところにはこれは充分認識されていると思うのですが、あまり戦略を詰めてこれはできないとなってしまうと仕様がないうです。方向性や概略、あるいは課題についても主要な課題の把握にとどめるというところで描いてございますが、非常に肝心な所だと思っています。

会長：はい、ありがとうございます。資料の説明を飛ばして失礼しました。今の議題に関しては89 ページから 92 ページまでの内容を受けての議論になっています。

委員：先ほどの資料の 83 ページのところですか。このやり方についてもこれでやるのがいいとは思いますが、色々なことを考えながらやったらいいと思います。今回ワーキングチームを中心に素材を作っていくということになりますが、83 ページの下の方に書いてありますように今の未来構想と新しい作り方が比較して書いてあります。前回の未来構想の話だからあんまり覚えていないのですが、当時は理念ということを中心にかなり議論したように思います。始めのころは確かテーマが8つくらいありましたが、8つもあるとほとんど意味がありません。だぶっているとか、むしろそうではなく、せいぜい3つ、ここでは4つになっていますが、それは必ずある基本的な次元をおさえている仕組みで書かれているときの、それがどれもバランスがとれたところにある目標の方向性が見えてくるという主旨の議論をしたと思います。そういうことは今回もなされると思いますが、先ほどのワーキングチームで現在の施策をベースにキーワードを抽出して、またそれをシャッフルしてというやり方だと、どちらかというと理念ではなく理念の実現のための制約された個別施策の方から逆に理念を出そうというのは、やはり違うかなという気がします。そういうことにならないかと思いますが、そのためにSDGsという概

念が大きな柱になっていると思います。84 ページ、現在の構想とSDGsとの、確かに必ず対応するわけですが、これで対応したからよかったということではなく、さっきの4つの前にはいろんなことを議論して考えました。SDGsも当然バックがあり、そこで5つになっているわけです。当てはまるから良いということで、ここで考えていることはもはや個別施策の内容が書かれてしまっているのですが、背景となる理念というのもぜひワーキングチームで議論いただくといいかなと思います。

一言最後に。つくば市は世界に打って出るようなチャレンジする都市だと思っています。それには一つつくばの古い歴史から今現在何があるのか。それは単につくば市の問題ではなく、日本の都市、先端都市がどういう方向を目指しているのか、ある意味人類的な挑戦をやっているのですよね。それを誇りに思えるような市民が、誇りに思えるまちになってほしいと思いますし、できたらそういうすぐ分かるような拠点施設もあつたらいいなと思っています。

会長：ありがとうございます。委員さんがおっしゃったように筑波研究学園都市は都市計画のすいを取り入れたまちなのでちゃんとレビューしないといけないと思っています。他どうでしょうか。

委員：まちづくりの理念をもう少し話したいなということで今回提案させていただいたものです。やはり先ほどの委員の話をうかがっていると、ストーリーを聞くとそのまち良いな住みたいなと思います。やはり未来構想を考える一丁目一番地のマイルストーンのところはそういうストーリーを考えるものにしたいと思っていました。そのストーリーなのですが、条件がいくつか必要な部分があると思います。まずは老若男女が聞いて理解できる一文であることです。2つ目が研究学園都市の方だけではなく、周辺の方々も含めてみんなが共感できるものであるべきです。3つ目がSGDsというか持続可能都市ビジョンに沿ったような形であるべきだと思っています。

それを考えたときに柔らかい言葉ではなんだろうと。1回目に申し上げましたが、「顔と顔が見えるまち」というようなものでどうかと考えています。顔と顔が見える、人と人とのつきあいがあるとアイデンティティが生まれたりします。あとは委員がおっしゃっていましたが、コミュニティがどうなるのか心配されている地域もあります。コミュニティをちゃんと守るという市からのメッセージにもなるのかなと思います。さらに先ほど委員がおっしゃっていましたが、つくばの研究者の集積や、あとはさらに新しいものを生むためにはやはり何だかんだいっても顔を合わせて話し合わないとも生まれなという話があります。それが売りでもあり課題でもあります。そういった

メッセージにもなるのかなと思います。当然ながら困っている人や子育て中の人を孤独にさせないという、欲張りですがそういうことを盛り込める言葉のかなと思います。更に当然顔と顔を見るためには、モビリティの問題であるとか、地域で暮らすための医療や在宅医療を解決しないといけませんから、そうすると委員がなさっておられるようなIOTの部分など、つくばならではの解決策をつなげていくとシビックの部分、更にその下のこちらの基本施策等々につながりやすいワードではないかなと思っています。

会長：はい、ありがとうございます。全体をちゃんとまとめていただいたと思いました。論点は着実に押さえていると思います。他どうでしょうか。

委員：冒頭の市長の御報告の中にも、教育のことも触れられていたこともありますし、アンケートの中で子供達が自分でものを作り出すという意欲が見えないというお話を聞きながら、自分で思うところなのですが、委員もおっしゃったように、これからすごい数の子供達がこのつくば市で育っていくということを考えたときに、私自身、高3・高1・小5の娘が3人いて、高1の娘はもうつくば市を出てしまいました。ひたちなかにある高専に入学し、高3の娘は千葉の看護師の専門学校に行くことが決まっています。来年春には出ます。小5の娘は海のものとも山のものともしれない感じなのですが、子供達がまたつくばに帰ってくるあるいはつくばでしっかり育ててそのままつくばでものを作っていく人になるというような、委員が以前御講演をされた中で学校を作りたいたいということを素晴らしいなと思って聞いていました。子供達がつくばで、自分達で何か作り出せる、地域に関わることができる、チャレンジができるということがあったり、あるいはそのまちに住んでいる大人たち、ものをつくっている大人たち、チャレンジしている大人たちの背中を見て育つとか。うちの次女が高専に行ってしまったのは、進学のためだけに勉強するような高校に行きたくないという理由です。彼女は高専の説明会で「エンジニアを目指します」「私達はものづくりをする人達を育てる学校です」ということに惹かれてそっちに行ってしまったのです。先が見えない、大学に行くためだけに日々勉強するだけの高校に何の魅力も感じられなかったのだと思います。うちの子は偏差値が高いわけでもないのですが、そういったものをつくりたい、チャレンジしたいと思える子が進学したいと思えるような学校がつくばにあるのかわからないですが、そういったことが重要だと思います。あとはイェナプランということをして市長がおっしゃっていましたが、そういった新しい教育をつくばでも取り入れていくということであれば、周辺で子どもが少なくなっていたり、廃校になったりしている学校もいかしながら、包摂的にどんなお子さんでも、生き生きと自分の能力をいかして挑戦できるような教育をやって、日本全国に発信できるようにしていく

と。そうした教育をやりながら、大人たちも研究者がたくさんいるこういうまちで、自分の力をつくばでいかしていこうと思えるような、子供達がつくばで何かチャレンジしていくというイメージを描けるようなそういう教育や環境を作っていただきたいと思います。そうした中で、教員の確保、今娘が通っている小学校でも教員が足りないという話も聞こえてきて本当に大丈夫かなと思ったりもするのですが、先進的な教育をつくばがやれるということであれば、もしかしたら意欲のある先生方がつくばにやってきてくれるかもしれないですし、そういったことも含め教育ということについては考えていただきたいと思っています。

委員：時間がないので本当に一言だけなのですが、具体的にどういうまちがいいのかなといろいろ聞いている中で、子どもが結構テーマになっている中で、「我がまち意識」なものがあるといういろいろ変わってくるのかと思っています。理由はいろいろあると思いますが、ゆくゆくのことを考えるとさっきアンケートで自分の市に対する意識が低いと、耳が痛いですが、自分のまちに対する意識を変えていくのも必要なのかなと思いました。

会長：ありがとうございます。

委員：どういうまちにしたいかという話があったのですが、やはり私も人との関わりが大事だと思います。大学で過ごしていても大学の仲間だけで完結してしまっていて、筑波大学は留学生の方がすごく多いのですが、実際にはあまり関わりがないことが多いです。違う集団の人々とどうにかして関わる機会をもっと増やしていけたら、大学で完結することもなくなりますし、中心地の人と郊外の周辺の人がわかれてしまっているという状況も改善されるのではないかと思います。交流をテーマにして考えていきたいと私は思っています。

会長：その他、お願いします。

委員：私もいろんな委員の方の話を聞いてなるほどそうならばいいなという思いが一番なのですが、私はより現実的な人間ですので、5年、10年、15年先くらいのつくば市がどういう姿で何が実現していればいいのかというくらいの考えしかないもので、その辺のことを考えていくのがいいのかなと思っています。未来構想ははるか何十年、どうなるか分からないことよりも今つくば市に住んでいる23万人、いろんな住民がたくさんいらっしゃるわけですので、その方も納得できる「そうだよな、その方向で進むと俺らもありがたいよな、いいよな」というような理解が得られる内容を出していかないという思いがあります。それとつくばの近くに住んでいる人が「そんなことをつくばがやっているなら俺らも移ってみたい」とか「あそこで子育てして

みたい」と思えるものを打ち出せる形にしていくという姿を具体的にしていきたいというのが私の思いです。資料としては 84 ページ、担当の方がこれだけの資料を出してくださって、84 ページにこれだけの内容がある程度出されているので、この辺の中からまとめても良いのではないかと思ったくらいです。その辺の視点で協議していきたいというのが私の感想というか意見です。蛇足というか怒られるかもしれないのですが、今日委員さんがいらっしゃっていますが、これだけの話をして最終的な市の市民の代表である市議会の議員さんが決めるというか、最終的に議会がやろうと考えないと先に進まないという体制ですので、私達、議員さんにこういう話を聞いてもらうなり、議員さん達がこういう会をつくばのこの先 5 年先 10 年先将来どうするだというのをやってほしいと小さい声ですが発言させていただきます。

会長：ありがとうございます。

委員：今日は大変勉強になりました。もう時間もありませんので、3つ程私の考えるキーワードをお伝えして発言としたいと思います。つくば市らしさを前に出す一つのキーワードは「科学コミュニケーション」というものだと思います。科学コミュニケーションは小さい子どもから生涯学習としてお年寄りまでずっと続けていけるものですので、科学コミュニケーションを挙げたいと思います。もう1つは「国際化」ということで、つくば市ならではの優秀な海外の人材が集まってきますので、特徴のある国際化が実現できると思います。もう1つが「ユニバーサルデザイン」ということで、子育てから高齢者まで広く対応していこうとするとどうしてもその考え方が外せないと思っています。キーワードではないのですが最初の頃に発言したと思いますが、若い研究者と若い起業家を育てるような仕組みづくりについて、ここだと任期の期間でいろいろなことができるのか、任期を延ばすチャンスがあるのか、優遇が受けられて会社を建てることできるのかそういう仕組みを作ってそこからフィードバックをもらうというような、そういうことが大事じゃないかと思いました。

会長：ありがとうございます。

委員：時間もないものですから、何点か気がついたことを述べさせていただきます。先ほど委員さんからございましたように、未来構想を決めていく中で裏付けとなる財政シート、予測は私も必要だと感じております。ある程度財源については、委員もおっしゃっていましたが、私も思うところがあります。そして、企業誘致については、前から申しておりますが、それを周辺地区、開発可能地がございますので、ベンチャー企業でも製造業でもとにかくつくばに活力を与えてくれる産業の構築を図っていただいて、法人事業税や固定



資産税が伸びてきますので、その何パーセントかを福祉や子育ての目的に使える金に枠組みを固定して定住促進を促すようなつくば市が発展するようなそういう使い道がある程度検討する必要があります。都市計画税というのを今 17 億くらいつくば市でいただいておりますが、それは都市系に必要な下水道の整備に莫大なお金を使っています。子育てや福祉・お年寄り等の目的に特定して使える枠組みを、目的に合わせて実現していただきたいと思えます。

あとは定住促進ではよく言われますが、千葉県の流山市、これはマスコミなんかでも取り上げられておまして、きっとHPなどで他の自治体と比較すると、子ども手当といった手当、待機児童といった施設でかなり優位、住みやすくできるということで人気があるのかと思いますので、先行例を利用して将来に向けてやっていただくということと、最後に国のプロジェクトで東京圏では成田と研究学園都市、2大プロジェクトであり、研究学園都市を2兆円かけて作って施設なんかも老朽化しておりますので、先ほどの財源という点からもある程度将来にわたった管理維持費的なものを国に求めていくのと、安全・安心の観点からちょうどURから払い下げた土地を起点に防災センター等を国とタイアップして作り、つくばの財源を潤沢にしていって施策を展開していただきたいと思えます。委員の意見に賛同いたします。

会長：ありがとうございます。

委員：時間がおしてしまっているのでも簡単に思っていることだけお伝えしたいと思えます。私はやはりどういう場面であれ、誰もがチャレンジできて失敗しようが成功しようがそれを皆さんが、社会あるいはつくば市にいる人達がそれを尊敬できる、やったことに対して褒められるという価値として認めてくれる、そういう市になってほしいと思えます。これは5年や10年じゃなくて長い時間かければよいと思っております。もう1つですが、企業誘致というのはもうたぶんこれからは期待しない方がいいと思えます。何故かというは今ほどの会社もそうですが、インターネットを含めて製造業もそうですが、特定の地、コストパフォーマンスのいいところへ皆移っていきますので、新しい産業につながるような技術やアイデアを持っているところが残っていきます。ですからカリフォルニアみたいにシリコンバレーもそうですが、ボストンもそういう研究地域もそうですが、そこで発祥した技術、そこで10年20年かって大きな場所ができあがってくるので、つくば市としては5年10年といわずに20年30年先を期待して新しい研究領域や場所を作っていくことを市として取り組んでいかれたらどうかと思っております。

会長：はい、ありがとうございます。失敗しても挑戦するチャレンジするのは

ほんとに大事だと思います。時間的に厳しいですが、どうしてもという方がおられましたらどうぞ。

#### 【議事（５）関係人口に関する調査の実施について】

会長：今御意見ありましたように時間制約がありますのでここで（４）は終わりにします。お時間よろしければ審議会終わった後で、構いませんのでよろしくをお願いします。それでは１回議事を進めて「（５）関係人口に関する調査の実施について」事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料５を用いて人口の将来推計の実施方針を説明。）

会長：ありがとうございます。実は関係人口というのはまちづくり・都市計画には非常に大事な指標になっています。よろしいでしょうか。以上で議事を終わりたいと思いますが、それでは「その他」事務局からスケジュール等をお願いします。

#### 【その他】

事務局：（今後のスケジュールについて説明）

会長：はい、ありがとうございます。以上で終わりたいと思います。

委員：今 12 月の定例議会開会中なのですが、今会期中に正副議長が交代する予定です。順調にいった場合ですが 12 月 21 日の最終日に交代する予定でありますので、次回の会議からは新しい正副議長が参りますのでお世話になりましたことを感謝申し上げますとともに、今後とも新正副議長に御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

#### 4 閉会

会長：ありがとうございます。以上で会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

閉会（午後 4 時 20 分終了）